

公益財団法人 全国商業高等学校協会 主催
文部科学省 後援

令和6年度 第99回 簿記実務検定試験 第2級

(令和7年1月26日実施)

時間 10時50分から12時20分 (制限時間90分)

注意事項

- 1 監督者の指示があるまで、問題を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は1ページから10ページまであります。
- 3 問題用紙の落丁や印刷が不鮮明である場合には、挙手をして監督者の指示に従いなさい。なお、問題についての質問には応じません。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 途中退室は原則できません。
- 6 試験終了後、問題用紙も回収します。

受験番号

受験番号

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	受	取	手	形	売	掛	金	電	子	記	録	債	権			
仮	払	消	費	税	支	払	手	形	買	掛	金	電	子	記	録	債	務
仮	受	消	費	税	売			上	雑		益	仕		入			
雑		損			現	金	過	不	足								

- a. 現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より $\yen 3,200$ 少なかった。よって、帳簿残高を修正して、その原因を調査することにした。
- b. 石川商店は、電子債権記録機関に発生記録の請求をおこない、北海道商店に対する買掛金 $\yen 564,900$ を電子記録債務とした。
- c. 三重商店は、商品 $\yen 187,000$ (消費税 $\yen 17,000$ を含む) を売り渡し、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜き方式により、仮受消費税勘定を用いている。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 滋賀商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）における下記の資料と資本金勘定によって、次の金額を計算しなさい。

- a. 売上高 b. 期首の負債総額

<u>資 料</u>	
i 期首の資産総額	¥6,340,000
ii 期間中の収益および費用	
売上高	¥ <input type="text"/>
受取利息	72,000
売上原価	6,752,000
給料	1,173,000
減価償却費	680,000
iii 当期純利益	¥ 265,000
iv 期末の資産総額	¥7,280,000
v 期末の負債総額	¥2,130,000

資 本 金	
12/31 次期繰越 ()	1/1 前期繰越 ()
<div style="border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	10/31 現金 450,000
()	12/31 損 益 ()
<hr style="border: none; border-top: 1px solid black;"/>	<hr style="border: none; border-top: 1px solid black;"/>

- (2) 京都商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）における下記の資料によって、次の受取地代勘定の（ア）に入る勘定科目と、（イ）に入る金額を求めなさい。

受 取 地 代			
R6/12/31 () ()		R6/ 1/ 1 (ア) ()	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 〃 損 益 (イ) </div>		R6/ 5/ 1 現 金 ()	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> </div>		R6/11/ 1 現 金 ()	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> </div>		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> </div>

資 料

- i 繰越試算表（一部）

繰 越 試 算 表		
令和6年/2月3/日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
	前受地代	20,000

- ii 地代は、令和5年5月/日に契約したもので、毎年5月/日と//月/日に向こう6か月分を、現金で受け取っている。なお、契約時から金額に変更はない。

(3) 次の文を読み、下記の a と b に答えなさい。

銀行との当座取引契約によって、小切手を振り出すことで引き出しができる預金のことを、当座預金という。小切手の振り出しは、原則として当座預金残高の範囲内でおこなわれる。しかし、銀行とあらかじめ契約を結ぶことで、その範囲内で、当座預金残高をこえて小切手を振り出すことができる。この当座預金残高をこえた金額を といい、銀行からの借り入れを意味している。

a. 下線部 を英語表記した場合にあてはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. Accounts receivable 2. Petty cash 3. Checking account

b. にあてはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. 小口現金 2. 当座借越 3. 預り金

(4) 支店会計が独立している大阪商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の次の資料によって、合併貸借対照表における（ア）から（エ）の金額を計算しなさい。

資 料

i 12月30日における元帳勘定残高（一部）

	本 店	支 店
現 金	¥181,000	¥ 54,000
当 座 預 金	269,000	172,000
売 掛 金	236,000	164,000
買 掛 金	160,000	152,000
本 店	—	209,000（貸方）
支 店	209,000（借方）	—

ii 12月31日における本支店間の取引

- ① 本店は、支店の買掛金 ¥23,000 を現金で支払った。
支店は、その報告を受けた。
- ② 支店は、現金 ¥17,000 を本店の当座預金口座に振り込んだ。
本店は、その報告を受けた。

iii 12月31日における本支店間以外の取引

- ① 本店は、福井商店に対する本店の売掛金 ¥29,000 を、同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

iv 当期における本支店それぞれの当期純利益

本店	¥162,000
支店	¥ 89,000

v 合併貸借対照表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	(ア)	買 掛 金	(ウ)
当 座 預 金	(イ)	借 入 金	237,000
売 掛 金	()	資 本 金	1,500,000
商 品	384,000	当 期 純 利 益	(エ)
備 品	840,000		
	()		()

3

兵庫商店の下記の伝票を集計し、仕訳集計表の（ア）から（エ）の金額を計算しなさい。
ただし、i 次の取引について、必要な伝票に記入したうえで集計すること。

ii 仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法で起票している。

取 引

1月 9日 宝塚商店に商品 ¥260,000 を売り渡し、代金は掛けとした。

〃 日 タウン情報誌の広告掲載料 ¥8,900 を現金で支払った。

入金伝票	
売掛金	95,000
普通預金	40,000
売掛金	110,000
()	()

出金伝票	
備品	162,000
消耗品費	7,100
当座預金	300,000
()	()

振替伝票（借方）		振替伝票（貸方）	
売掛金	130,500	売上	130,500
水道光熱費	12,700	当座預金	12,700
仕入	96,400	買掛金	96,400
売掛金	280,000	売上	280,000
買掛金	301,000	当座預金	301,000
当座預金	52,600	電子記録債権	52,600
電子記録債権	224,000	売掛金	224,000
買掛金	79,200	当座預金	79,200
仕入	190,000	買掛金	190,000
()	()	()	()

仕訳集計表
令和〇年/月9日

借方	平	勘定科目	平	貸方
		現金		(ア)
		普通預金		
(イ)		当座預金		
		売掛金		
		電子記録債権		
		備品		
		買掛金		
		売上		(ウ)
		仕入		
		広告料		
		消耗品費		
		水道光熱費		
(エ)				(エ)

4 新潟商店の下記の取引について、

- (1) 総勘定元帳に記入しなさい。
- (2) 補助簿である当座預金出納帳、仕入帳、買掛金元帳、商品有高帳（A品のみ）に記入しなさい。
ただし、
 - i 総勘定元帳は、日付と金額のみを記入すればよい。
 - ii 商品有高帳は、先入先出法により記帳している。
 - iii 当座預金出納帳、仕入帳、買掛金元帳、商品有高帳は月末に締め切るものとする。
 - iv 消費税については考えないものとする。

取 引

1/月 5日 長岡商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 110個 @ ¥200

9日 魚沼商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品 500個 @ ¥130

1/日 佐渡商店に商品を注文し、内金として、次の小切手#12を振り出して支払った。

No.12		令和〇年1月11日	
金額	¥30000	金額 ¥30,000	
渡先	佐渡商店	上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください。 拒絶証書不要	
摘要	内金支払い	振出日 令和〇年1月11日 振出地 新潟県新潟市 振出人 新潟一太	
残高	¥185000	新潟県新潟市中央区白山浦2-68-2 新潟商店	

全国 5001 0915-018

新潟

1/5日 魚沼商店に対する買掛金 ¥72,000 を、小切手#13を振り出して支払った。

1/7日 上越商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

B 品 200個 @ ¥70

C 品 150個 @ ¥180

1/9日 上越商店から1/7日に仕入れたC品をすべて返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くこととした。

C 品 150個 @ ¥180

次ページに続く


前ページから続く

22日 長岡商店に対する売掛金 ¥56,000 について、同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

25日 村上商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 320個 @ ¥200
B 品 80〃 " " 140

26日 上越商店に対する買掛金について、次の請求書を受け取っていたが、本日、小切手#14を振り出して支払った。

請 求 書		令和〇年/月/2日 No.240/20		
新潟県新潟市中央区白山浦2-68-2				
新潟商店 御中		上越商店		
下記の通りご請求申し上げます。		新潟県上越市中田原 90-1 TEL 025 (526) XXXX		
				
		今回ご請求金額		
		¥ 31,500		
商品名	数量	単価	金額	備考
B品	450個	70	31,500	
以下余白				
合 計			31,500	

30日 村上商店に対する売掛金 ¥57,000 について、同店振り出しの約束手形#20で受け取った。

5 和歌山商店（個人企業 決算年／回 12月31日）の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 貸借対照表を完成しなさい。
- (2) 損益計算書に記載する売上原価の金額を求めなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 512,000	当座預金	¥ 2,408,000	受取手形	¥ 1,000,000
売掛金	1,590,000	貸倒引当金	9,000	有価証券	1,560,000
繰越商品	450,000	仮払金	62,000	建物	8,000,000
建物減価償却累計額	1,920,000	備品	720,000	備品減価償却累計額	288,000
支払手形	905,000	買掛金	1,241,000	借入金	970,000
資本金	9,080,000	売上	14,700,000	有価証券売却益	65,000
仕入	10,063,000	給料	2,280,000	旅費	270,500
保険料	232,500	雑費	21,000	支払利息	9,000

付記事項

- ① 従業員の出張にさいし、旅費の概算額として ¥62,000 を仮払いしていたが、従業員が帰店して精算をおこない、残額 ¥2,700 を現金で受け取った。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥659,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ1%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 減価償却高 建物：定額法による。ただし、残存価額は零(0)耐用年数は50年とする。
備品：定率法による。ただし、毎期の償却率は40%とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
東西株式会社 1,500株 時価 /株 ¥1,080
- e. 保険料前払高 保険料のうち ¥186,000 は、本年4月1日からの1年分を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- f. 利息未払高 ¥ 4,600

6 次の各問いに答えなさい。

(1) 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	当座預金	普通預金	仮払法人税等
未払法人税等		資本金	利益準備金	創立費
株式交付費				

a. 奈良商事株式会社は、企業規模拡大のため、あらたに株式2,000株を1株につき ¥4,500 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この株式の発行に要した諸費用 ¥230,000 は小切手を振り出して支払った。

b. 富山株式会社（決算年/回）は、法人税・住民税及び事業税について中間申告をおこない、前年度の納付額 ¥380,000 の2分の1を現金で納付した。

(2) 南北物産株式会社（決算年/回 3月31日 発行済株式数4,000株）の、次の純資産に関する取引と繰越利益剰余金勘定により、当期純損益の金額を求めなさい。また、当期純利益の場合は純利益、当期純損失の場合は純損失を○で囲みなさい。

純資産に関する取引

2023年 6月25日 株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。

配当金	1株につき ¥500
利益準備金	¥200,000
別途積立金	¥800,000

2024年 3月31日 第6期の決算の結果、当期純損益を計上した。

繰越利益剰余金			
2023/ 6/25	未払配当金 ()	2023/ 4/ 1	前期繰越 4,728,000
〃	利益準備金 ()	2024/ 3/31	次期繰越 346,000
〃	別途積立金 ()		
2024/ 3/31	損益 ()		
	()		()

第99回 簿記実務検定 2級 商業簿記 [解答用紙]

1	借	方	貸	方
	a			
	b			
c				

2

(1)	a	イ	b	イ
-----	---	---	---	---

(2)	ア	イ	イ	イ
-----	---	---	---	---

(3)	a	b
-----	---	---

(4)	ア	イ	イ	イ
-----	---	---	---	---

ウ	イ	エ	イ
---	---	---	---

1	
得点	

2	
得点	

3	
得点	

4	
得点	

5	
得点	

6	
得点	

総得点	
-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

3	ア	¥
	イ	¥
	ウ	¥
	エ	¥

4

(1)

当座預金 2			総勘定元帳 受取手形 3			売掛金 4		
1/ 1 215,000			1/ 1 58,000			1/ 1 141,000		
前払金 7			買掛金 9			売上 15		
			1/ 1 162,500					
			4 120,000					
仕入 18								
1/ 4 120,000								

(2) (注意) 当座預金出納帳, 仕入帳, 買掛金元帳, 商品有高帳は締め切ること。

当座預金出納帳

11

令和 ○年	摘 要	預 入	引 出	借または 貸	残 高
/ /	前月繰越	215,000		借	215,000

仕 入 帳

8

令和 ○年	/	/	摘 要	内 訳	金 額
/	/	4	佐渡商店 掛 け D品 800個 @ ¥ 150		120,000

買 掛 金 元 帳

魚 沼 商 店 1

上 越 商 店 2

令和 ○年	/	/	摘 要	借 方	貸 方	借または貸	残 高
/	/	/	前月繰越		72,000	貸	72,000

令和 ○年	/	/	摘 要	借 方	貸 方	借または貸	残 高
/	/	/	前月繰越		31,500	貸	31,500

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名 A品

単位：個

令和 ○年	/	/	摘 要	受 入			払 出			残 高		
				数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
/	/	/	前月繰越	150	120	18,000				150	120	18,000

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">3</div> 得点	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">4</div> 得点
---	---

5

(1)

和歌山商店		貸借対照表		(単位：円)
		令和〇年/2月3/日		
資 産	金 額	負債および純資産	金 額	
現 金		支 払 手 形		
当 座 預 金		買 掛 金		
受 取 手 形 ()		借 入 金		
貸 倒 引 当 金 ()		()		
売 掛 金 ()		資 本 金		
貸 倒 引 当 金 ()		()		
有 価 証 券				
商 品				
()				
建 物 ()				
減 価 償 却 累 計 額 ()				
備 品 ()				
減 価 償 却 累 計 額 ()				

(2)

¥

6

(1)

	借 方	貸 方
a		
b		

(2)

当期（純利益・純損失）	¥
-------------	---

※（純利益・純損失）のいずれかを○で囲むこと

5		6	
得点		得点	